

平成 22 年度 花 菖 蒲 展 示 会 に つ い て

展示会実行委員会



6月8日(火)から13日(日)まで6日間鎌倉市の大船フラワーセンターで開催されました。今回は日本花菖蒲協会創立80周年記念祝賀会を横浜で開くことにあわせ、最終日の13日に全国からの参加者に展示会を見ていただくことになり、首都圏の出展者一同、張り切って準備しました。

今回は4～5月の低温と日照不足から、開花が例年より大幅に遅れ、良い花をお見せできるかどうか心配でしたが、出展者の執念が実り、どうやら例年並の花容を揃えて皆様をお迎えできました。会期中の一般の参加者も増え、展示会の評価も定着しつつあります。花菖蒲を園芸文化として演出する筋書きで例年協力をいただいている、絵手紙、写真、俳句色紙の展示も好評で、たくさんの来場者を

集めました。出展者は18名、出展数は小鉢ポット400鉢、盆養10鉢、大鉢25鉢でした。

ほぼ毎日展示台上がる鉢は変わりますが、参考までに優秀作品として、金屏風前に登場した6月9日の7鉢は、佐野の渡、藍草紙、虹の羽衣、公達、新潮来、千姫、皇玉でした。その他、盆養浅鉢部分10鉢、丸テーブル部分9鉢、波型展示台部分36鉢、大鉢展示台部分25鉢(内に大船フラワーセンター出展大船種を含む)と多士済済、絢爛豪華でした。

以下関係者を列記し、ご協力に対し、御礼を申し上げます。(敬称略)



(花菖蒲出展者) 東京近郊の会員 18 名

(その他の展示) 俳句色紙=つむぎ俳句研究会村中紫香ほか、星野文子、絵手紙=ろうきん戸塚支店友の会絵手紙教室、美友会蓑島美智子ほか、田中多賀子、鳴滝みどり、写真=横浜フォトクラブ 97

≪ 展 示 さ れ た 俳 句 ≫

風立ちて千の彩なす花菖蒲

村中紫香

さゆらぎし花菖蒲の鼓動あり

村中紫香

菖蒲田に一陣の風はなの舞

片岡さかえ

風生あれて水面きらめく花菖蒲

片岡さかえ

王朝のロマンの香る花菖蒲

芝山恵美子

志魂秘む命三日の花菖蒲

芝山恵美子

朝露にほどく紫花菖蒲

高橋正子

秘め事のはらりほころぶ花かつみ

高橋正子

たゆみなき水車の音や花菖蒲

星野文子

花勝見その影にふれ鯉過ぐる

星野文子

【補足説明】大船フラワーセンターで開催される日本花菖蒲協会展示会に毎年俳句を詠まれ、応援して頂いて先生方の作品です。来場者の花菖蒲観賞にヒントを与え、展示会に彩りを加えています。(椎野昌宏記)

日本花菖蒲協会 80周年記念祝典について

会長 椎野 昌弘

平成 22 年 6 月 12 日 (土) 午後 4 時 30 分から横浜市中区の中華街の‘菜香新館’で、日本花菖蒲協会 80 周年記念祝典が開催され、各地より 44 名の会員及び家族の皆様が参加しました (右記念写真参照)。

祝典は、福住康文副会長の司会で進行し、まず山脇信正副会長の乾杯で幕をあげました。乾杯酒は参列した鳥取の会員、大谷修子さんが経営される大谷酒造 (株) が祝典にあわせて仕込まれた純米吟醸酒「天空の鷹花菖蒲」でした。そのほのかな香りとまろやかな味わいで参加者一同 80 周年の慶事を心から称えることができました。続いて私、椎野から奇しくも開港 150 周年記念に沸く横浜の地で祝典が行われたことに感慨を述べ、更に協会が 90 周年から 100 周年に向かって、花菖蒲の伝統を持続し発展させるよう、皆で頑張りましょうとご挨拶させていただきました。



5つのテーブルには鎌倉市の大船フラワーセンターで行われていた花菖蒲展示会から持参された花菖蒲が花瓶に活けられ、宴に彩りをそえました。横浜中華街でも名店である‘菜香新館’の美味の中華料理を堪能しながら、遠路地方から参加して下さった方々を中心に近況を語っていただきました。和やかな懇談のうちに、次の予定の横浜港ナイトクルーズ(水上バスツアー)乗船時間が迫ったため、午後6時に閉会しました。

訃報 松本一郎先生逝去される

日本花菖蒲協会会員で古代土器の研究者でもあった松本一郎先生が平成 22 年 11 月 10 日天寿をまっとうされました。先生は、東京花菖蒲協会の副会長として靖国神社の奉納花菖蒲展に永年出展を続けてこられました。先生は、福島県浅川町で 1920 年にお生まれになり、学法石川中学校卒業後上京され、東京青山師範学校 (現東京学芸大学) を卒業されました。在学中に文部省教員検定試験に合格され、東京都の教員に奉職されました。太平洋戦争が勃発し、海軍軍人として応召され戦艦「五十鈴」に乗艦し、フィリピン・ジャワ海戦に参戦中、敵艦の魚雷を受け、五十鈴は沈没し戦友のほとんどが戦死されましたが、先生は九死に一生を得て救助され抑留後、昭和 21 年帰国されました。帰国後、旧東洋大学史学科に入学卒業され、東

京都の教職に復職されました。その後、東京都の派遣留学生として東京文理科大学 (現つくば大学) で古代史 (考古学) を修了され都立高校の教職に就かれました。このころ、先生は、武蔵丘陵で発見した古代土器の破片が気になり、休日返上で、教職の昇進試験も断り、土器の発見・発掘に情熱を注ぎ込み、生涯を通じて 85 点の古代土器を手掘りで発掘され研究されました。平成 22 年 10 月 16 日山脇副会長がご自宅をお訪ねした時もお元気で、来年の靖国神社での花菖蒲展に出品する鉢植えの準備をしておられ、亡き戦友の御霊を慰めるために奉納は続けると張り切っておられたのが思い出されます。松本一郎先生、長い間お疲れ様でした。安らかにお休みください合掌。(金子嘉明 記)